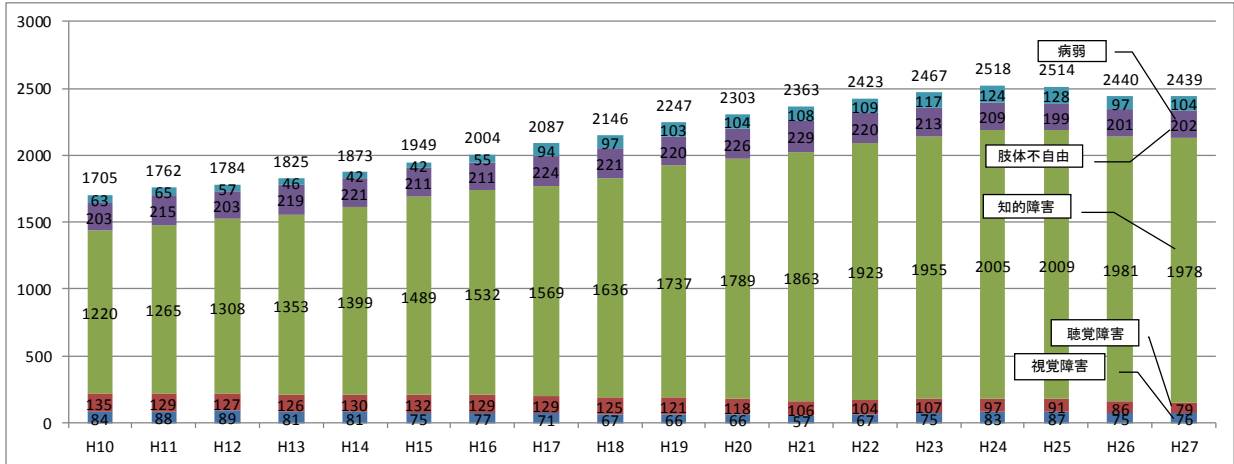


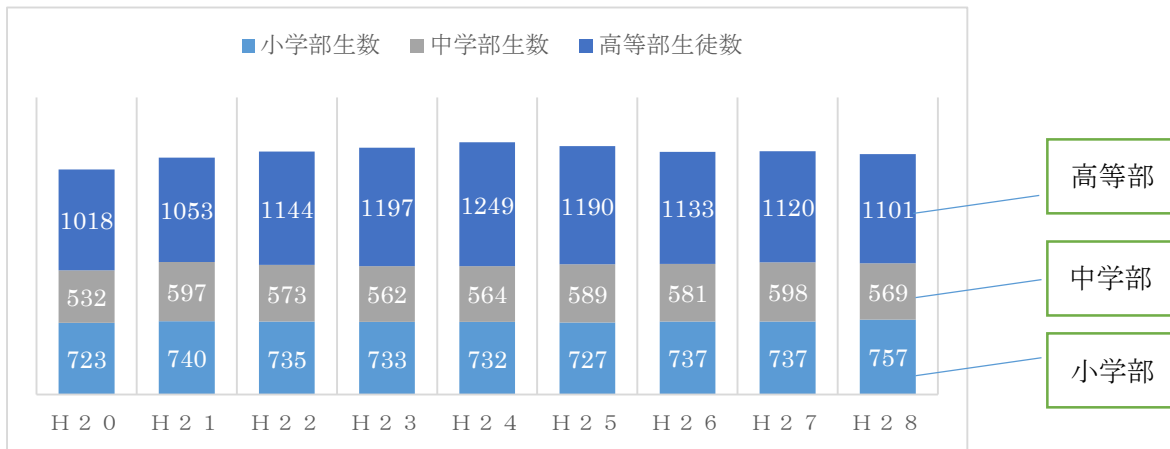
1 特別支援学校児童生徒数の推移

○特別支援学校児童生徒数は増加しており、知的障がい特別支援学校の児童生徒数は、高い水準で推移している。



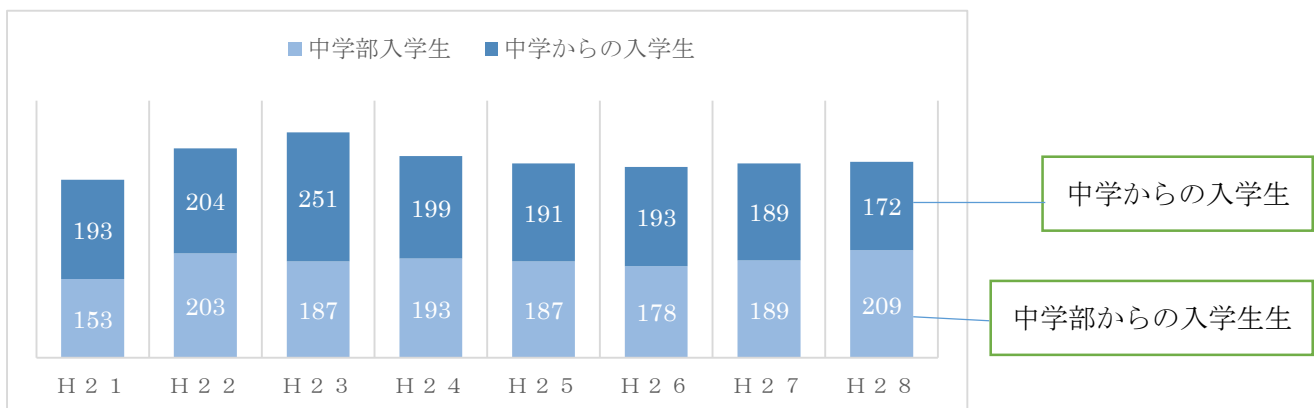
2 特別支援学校 各部の児童生徒数の推移

○高等生数は、高い水準で推移している。



3 高等部1年生の出身校種別生徒数の推移

○高等部に入学する生徒の約半数が、中学校特別支援学級からの入学生である。



4 高等部卒業生（本科）の進路

○卒業生の約7割の進路先が社会福祉施設等である。一般就労をする生徒は約2割で推移している。

進路	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
盲・ろう専攻科	7 (1.8%)	2 (0.5%)	4 (1.0%)	3 (0.8%)
大学短大・各種学校	4 (1.0%)	11 (2.9%)	4 (1.0%)	7 (1.9%)
就職・開業	73 (18.5%)	78 (20.7%)	76 (20.2%)	72 (19.8%)
社会福祉施設等	279 (70.8%)	262 (69.5%)	271 (71.9%)	261 (71.9%)
その他 家居等	31 (7.9%)	24 (6.0%)	22 (5.9%)	18 (5.0%)
計	394	377	377	363

(単位：人)

5 特別支援学校高等部卒業生の現場実習実施状況と就職率

就職率は全国平均を下回っている。現場実習での実習者数、一般就労者数ともほぼ横倍で推移

		H24	H25	H26	H27
長野県	卒業生数	394人	377人	377人	363人
	現場実習実施者数	128人	134人	126人	116人
	一般就労者数	73人	78人	76人	72人
	現場実習実施者の就職率	57.0%	58.2%	60.3%	62.0%
	就職率	18.5%	20.7%	20.2%	19.8%
全国	就職率	27.7%	28.4%	28.4%	(未公表)

6 特別支援学校高等部分教室卒業生の進路状況

高等部分教室の一般就労率は高い。

	H25	H26	H27
卒業生	20人	23人	28人
一般就労率	14人	19人	21人
就職率	70%	82.6%	75%

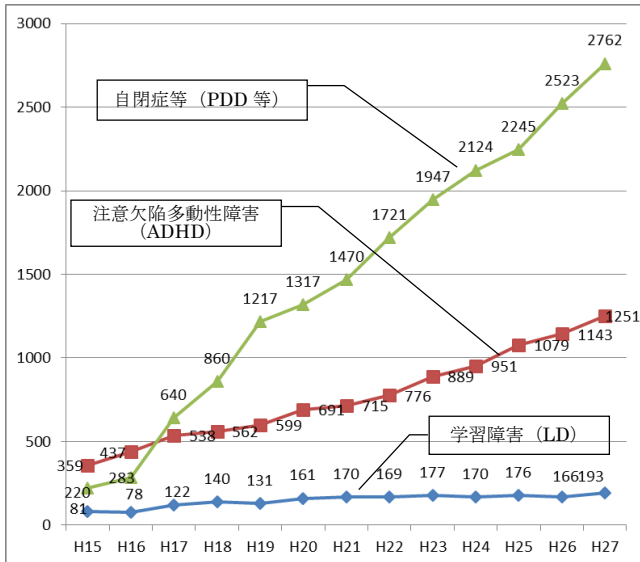
※高等部分教室

学校名	分教室名	設置場所	設置
稲荷山養護学校	更級分教室	更級農業高	H17
安曇養護学校	あづみ野分教室	南安曇農業高	H22
伊那養護学校	中の原分教室	上伊那農業高	H24
小諸養護学校	うすだ分教室	佐久平総合技術高	H26
長野養護学校	すざか分教室	須坂創成高	H28

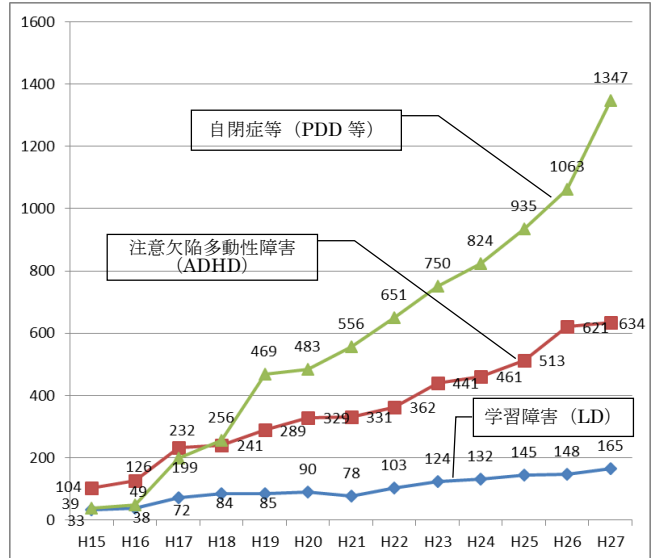
7 発達障がい診断等のある児童生徒の増加

○発達障がい診断等のある児童生徒は、年々増え続けている。このうち、通常の学級に在籍する児童生徒は、小1.83%、中1.70%。診断等はないが支援が必要と思われる児童生徒と合わせ、小7.14%、中4.92%（H27）であり、全国状況（小7.7%、中4.0%）（H24文科省調査）とほぼ同程度。

[小学校]



[中学校]

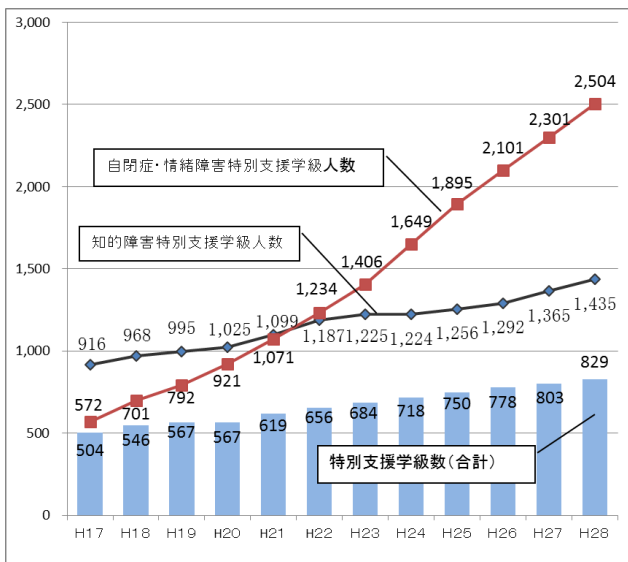


・学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症等（PDD等）の数値は、本県独自調査による。
（PDD等には、広汎性発達障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群、反抗挑戦性障害、複数の診断等を含む。）

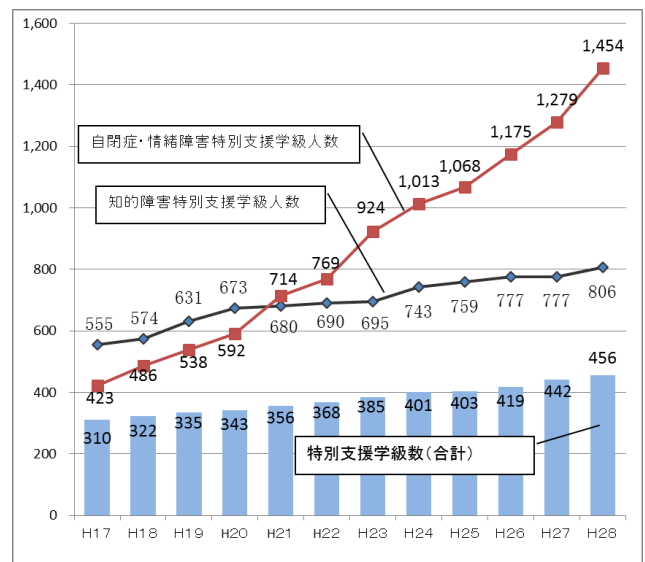
8 特別支援学級在籍児童生徒の増加

○特に「自閉症・情緒障害特別支援学級」に在籍する児童生徒が、年々増え続けており、小学校は全国2位、中学校は全国1位。（H27）

[小学校]



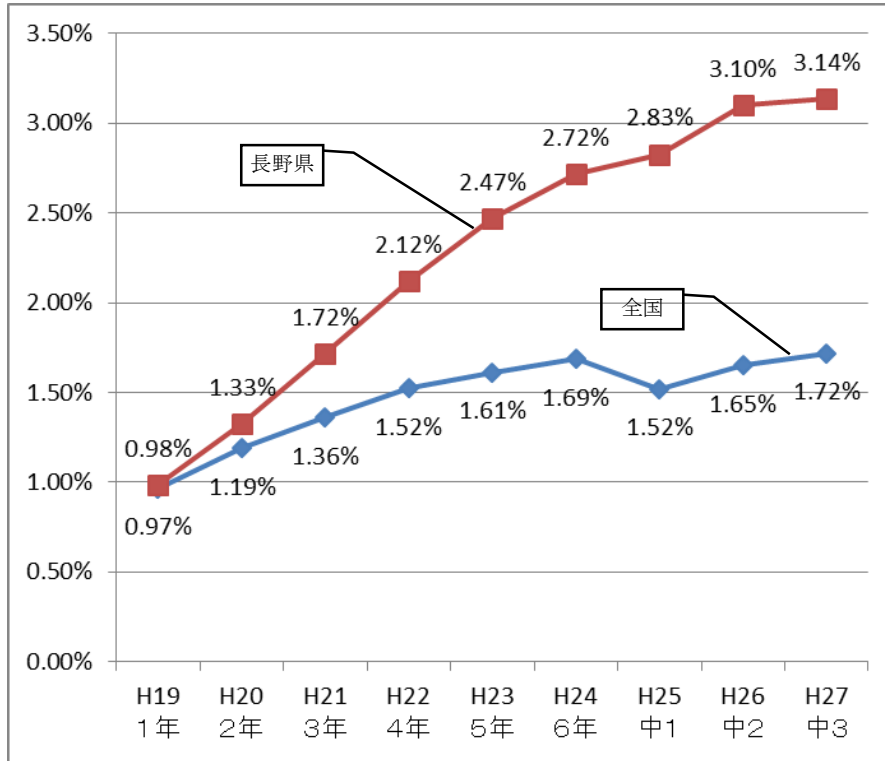
[中学校]



9 特別支援学級在籍率の学年進行による推移（全国比較）

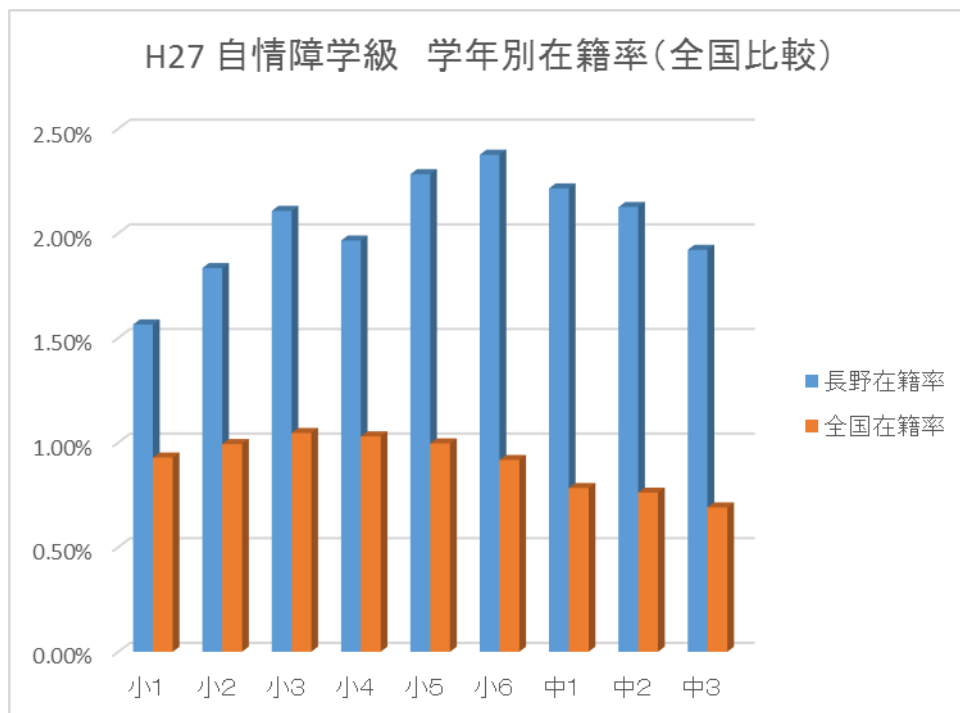
○H19年度の入学時は全国と同程度だが、その後、通常の学級から特別支援学級に移る率が全国に比して高く、学年を追うごとに差が開いている。

[平成19年度に小学校に入学し、平成27年度に中学校を卒業した学年の年度ごとの在籍率の推移]



10 学年別 自・情障特別支援学級在籍率（H27 全国比較）

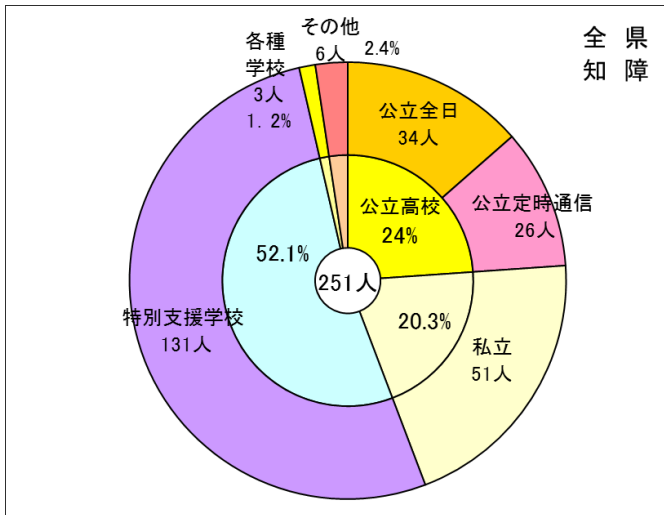
○どの学年も全国に比して在籍率は高く、特に高学年以降、全国との差が大きい。



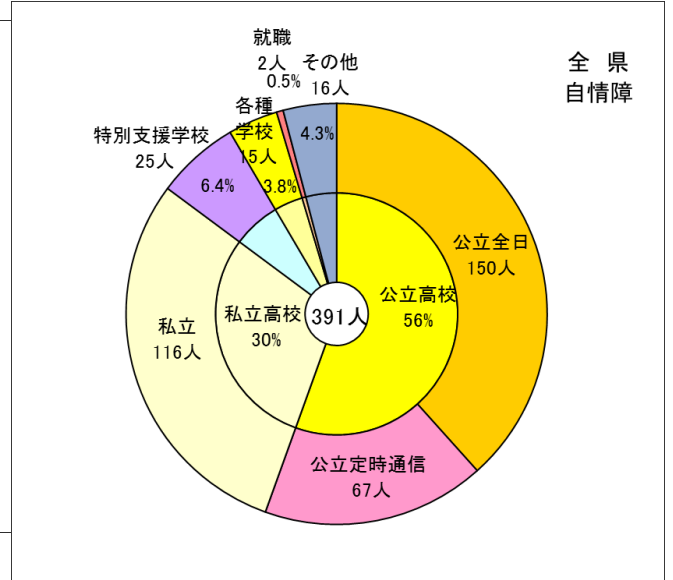
11 特別支援学級児童生徒の中学卒業後の進路

○特別支援学級を卒業後、高等学校へ進学する生徒が多い。特に、自・情障では86%。(全国1位)

[知的障がい特別支援学級卒業生の進路]



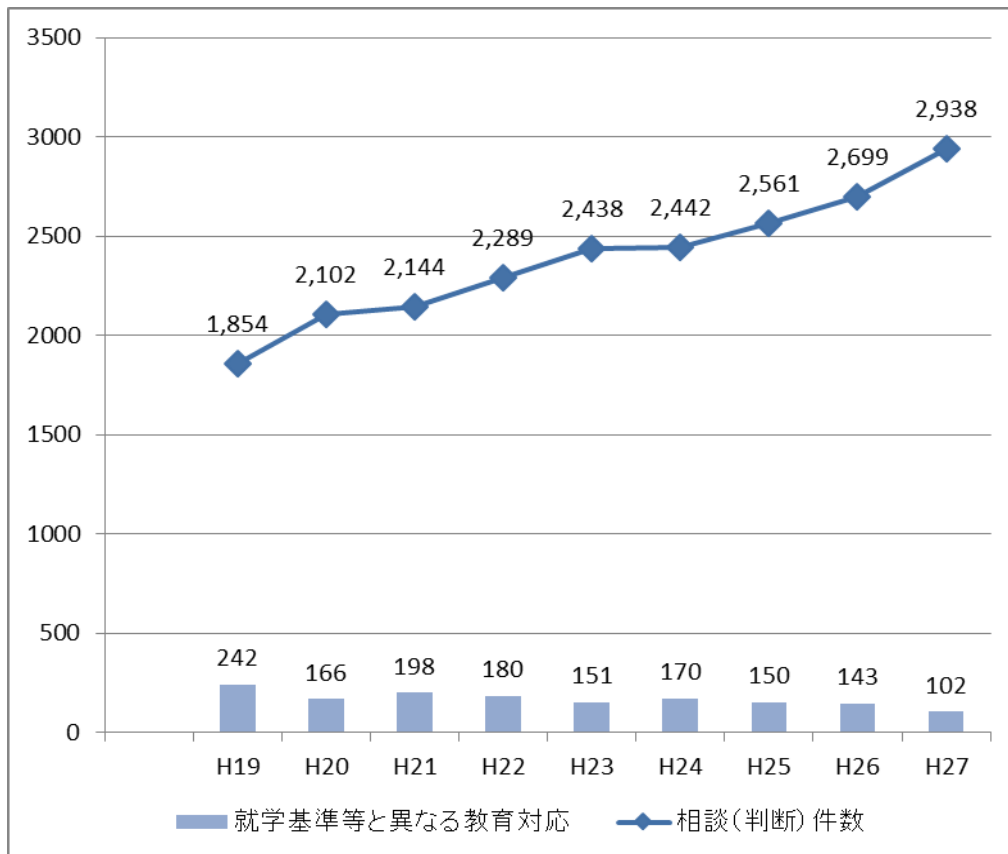
[自閉症・情緒障害特別支援学級卒業生の進路]



12 就学相談（判断）の現状

○就学相談（判断）件数は増加し続けているが、就学基準等と異なる教育対応は減少している。

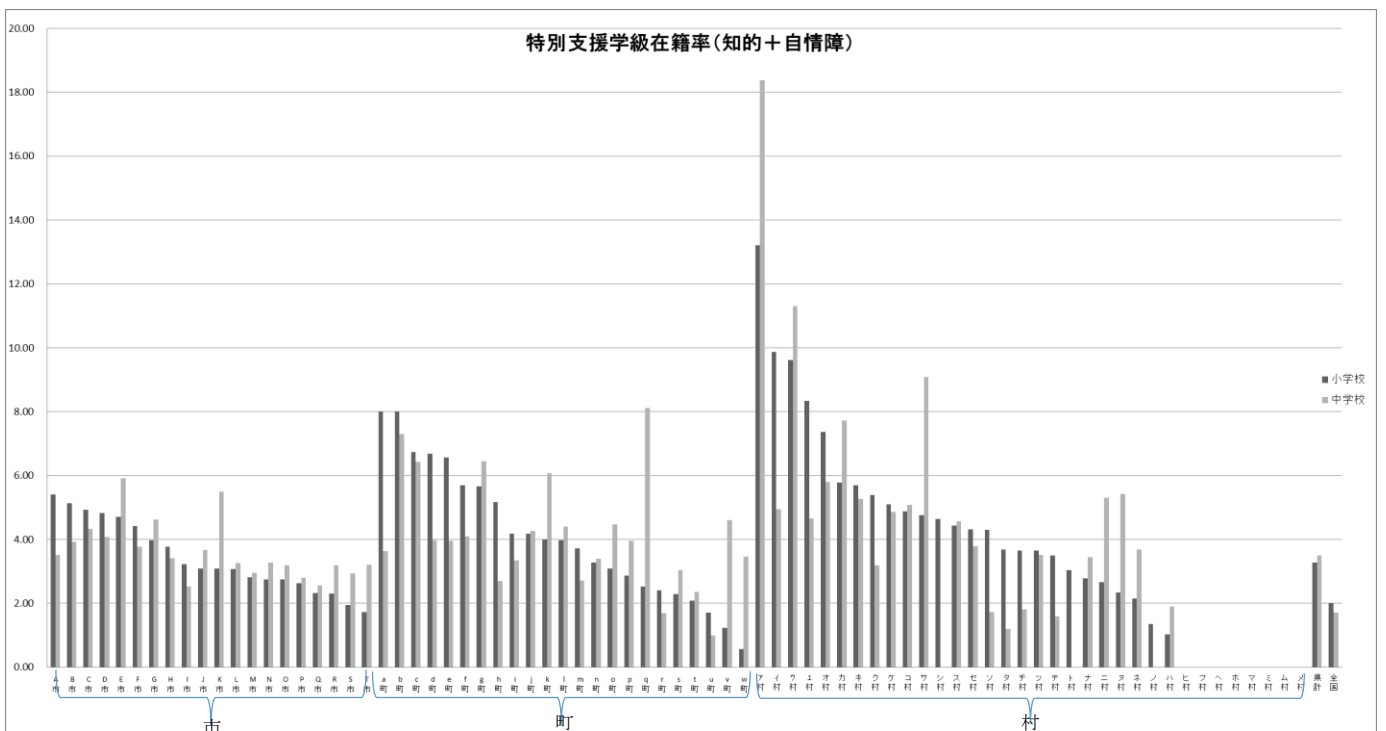
[就学相談（判断）件数と、就学基準等と異なる教育対応の件数]



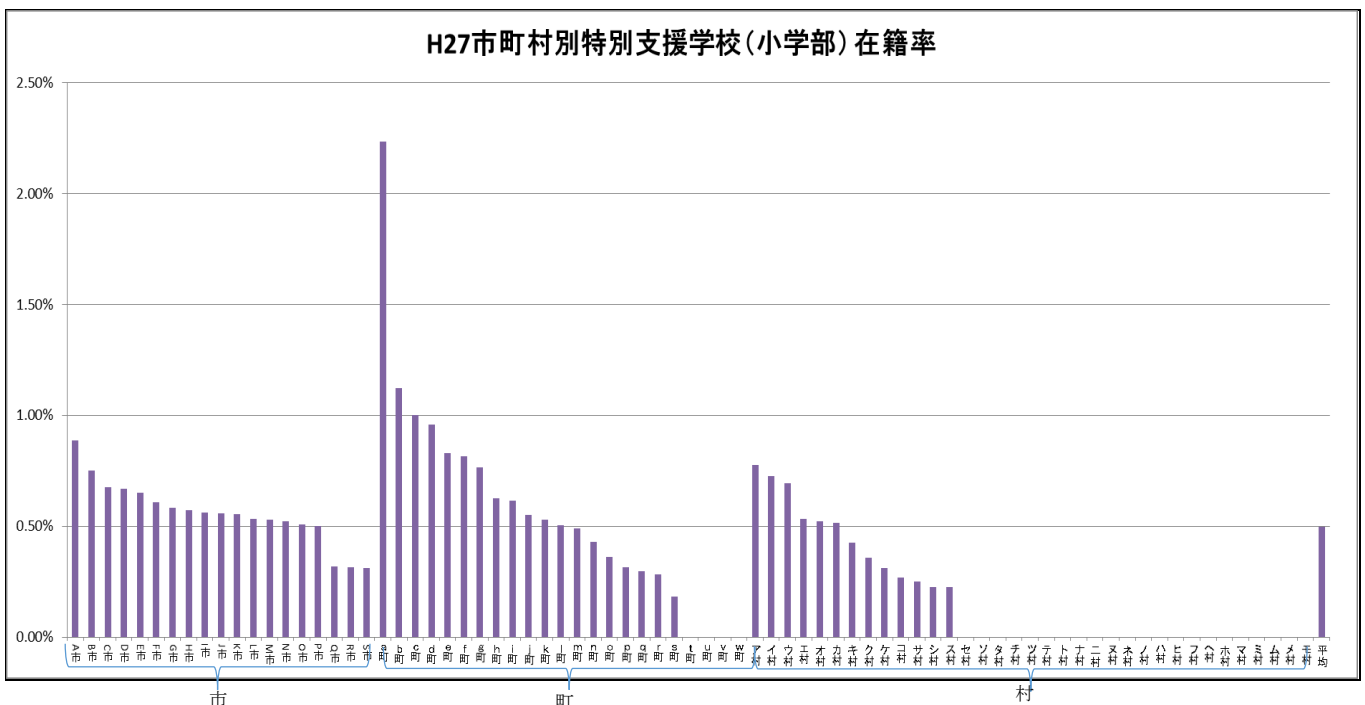
13 市町村別の判断結果等

- 特別支援学級、特別支援学校ともに、在籍判断となる児童生徒数には、地域の差異が生じている。
- 「就学基準」は本来絶対的なものであるが、該当する児童生徒像の認識に違いがあるかもしれない。
 - ・基準に該当する児童生徒像が先行事例等に影響されている傾向はないか。
 - ・特に特別支援学級判断については、各学校の校内就学相談委員会による差異が生じていないか。

(1) 市町村別の特別支援学級（知的・自情）在籍率（H27）



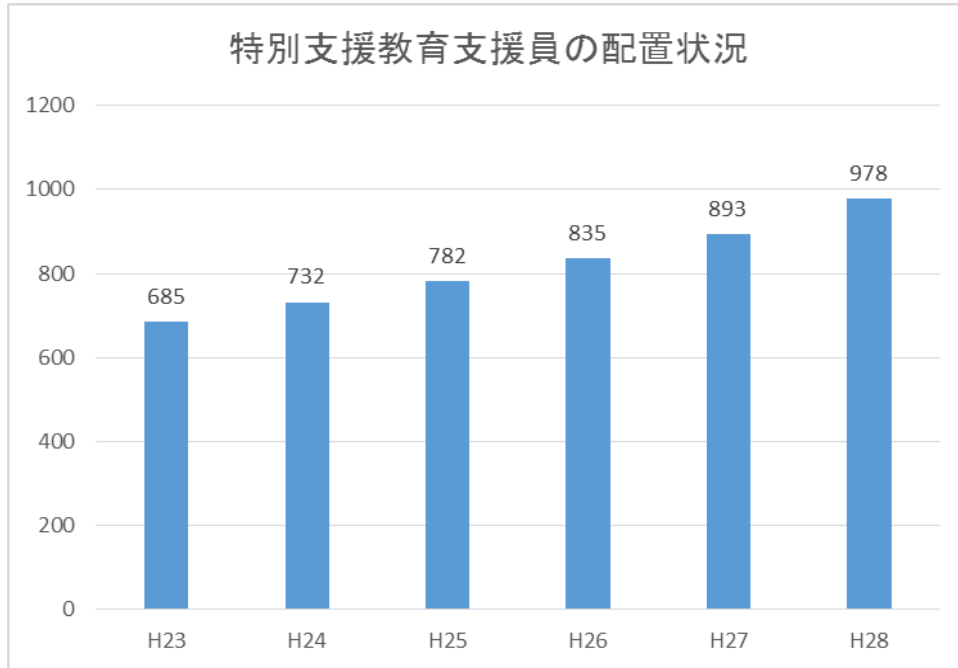
(2) 市町村別の特別支援学校（小学部）在籍率（H27）



14 特別支援教育支援員の配置人数

市町村におかれては、多くの支援員を配置しており、その数は年々増加している。

[小・中学校に配置されている特別支援教育支援員の推移]

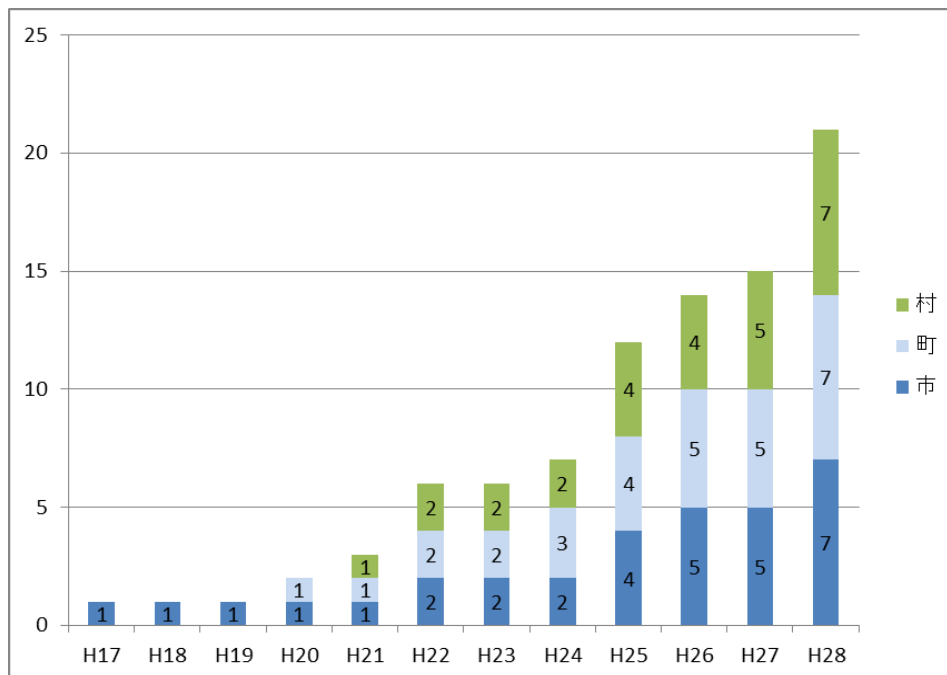


(H27 支援員配置市町村数：64)

15 副次的な学籍の実施状況

副次的な学籍の制度を設けて、居住地校との交流を進める市町村が増えてきている。

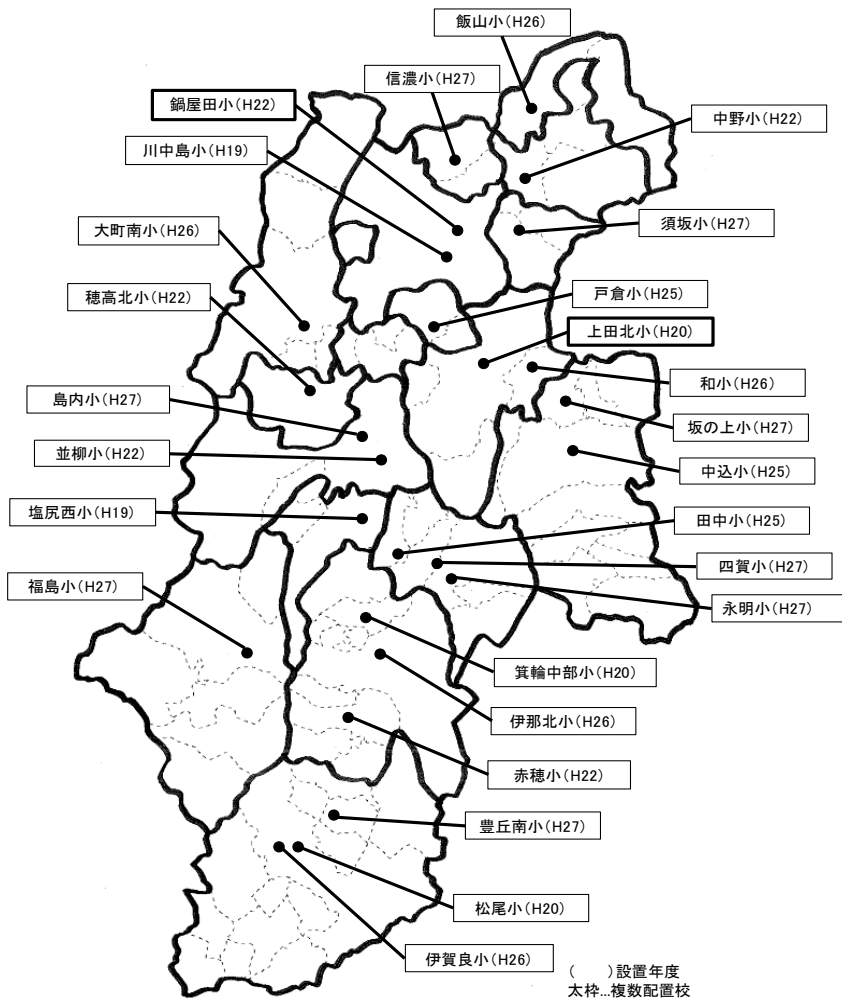
「副次的な学籍」の制度を設けている市町村数



※副次的な学籍とは：特別支援学校に在籍する児童生徒について、居住地の小中学校に副次的な学籍を設けて交流および共同学習を推進する取組

16 LD等通級指導教室 設置状況

県内 15 郡市 19 市すべてに 26 校 28 教室配置。



地区	学校名	市町村	計
北信	川中島小	長野市	5
	鍋屋田小(2)	中野市	
	中野小	千曲市	
	戸倉小	飯山市	
	飯山小 須坂小 信濃小	須坂市 信濃町	
東信	上田北小(2)	上田市	8
	中込小	佐久市	
	和小	東御市	
	坂の上小	小諸市	
中信	塩尻西小	塩尻市	6
	穂高北小	安曇野市	
	並柳小	松本市	
	島内小	大町市	
	大町南小 福島小	木曾福島町	
南信	箕輪中部小	箕輪町	9
	松尾小	飯田市	
	伊賀良小	駒ヶ根市	
	赤穂小		
	豊丘南小		
	田中小		
	伊那北小		
	四賀小	諏訪市	
永明小	茅野市		
豊丘南小	豊丘村		
計			28

17 LD等通級指導教室の利用率の推移

年々、在籍率が増加しているものの、全国に比して在籍率が低⁵⁰。

